

# ウェルウォーク通信

## WWスタッフの教育 ～習熟度の可視化と初期設定の手順について～

日頃はウェルウォークをご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。  
今回は、牧田リハビリテーション病院様の取り組みについてご案内致します。

### 牧田リハビリテーション病院（東京都大田区）

#### 【基本情報】

- ・病床数：回復期リハビリテーション病棟 120床  
医療療養病棟 60床
- ・リハビリスタッフ数：96名（PT53名、OT29名、ST14名）



#### 【ウェルウォーク運用】

- ・導入時期：2017年9月（WW-1000）
- ・WW操作可能人数：12名

#### 【当院での取り組み】

- I：操作習熟度の可視化**    **II：パラメータ初期設定値の手順書の作成**

## I：操作習熟度の可視化

一人でWWを操作可能なスタッフの増加を図ったが、WW操作の経験値を可視化できておらず、評価基準が無かった。WWの操作とフィッティングの習熟度を可視化し、その判断基準も明文化することでフォローの必要度の段階づけを行った。

#### 【ウェルウォークの操作フォローの必要度】

- ☆：完全自立。他者の指導（フォロー）が担える。
- ◎：主担当患者 or 主担当ではない患者を代理介入する場合において  
設定が決まっていればフォロー不要で実施可能。指導（フォロー）は出来ない。
- ：主担当患者で設定が決まっていれば実施可能。（フォロー不要）  
主担当ではない患者を代理介入する場合は1単位フォロー必要。
- △：主担当患者でも1単位フォロー必要。
- ×：主担当患者でも2単位フォロー必要。

未研修：研修前、練習中の状況。（WWの実施、脚部調節できない）

#### ＜必要度の変更基準＞

☆スタッフが同席した際に  
実施状況をみて総合的に判断

#### 【フィッティングフォローの必要度】

- ：1人で実施できる。  
フォローなしでも実施できる。
- ▲：フィッティングの流れを確認した。
- ×：未経験

#### ＜●になるまでの流れ＞

- 見学：● スタッフのフィッティングを×スタッフが見学。  
見学したら▲となる。
- 実施：●の立ち合いの元、▲スタッフがフィッティングを実施。  
安全性の確認を行い問題なければ●となる。

#### ＜記載例＞

#### 【操作フォローの必要度 / フィッティングフォローの必要度】

スタッフA：☆/●    スタッフB：×/×    スタッフC：△/▲    スタッフD：未研修

## II：パラメータ初期設定値の手順書の作成

特にWWの症例経験数が少ないスタッフは、パラメータの初期設定に苦慮していたため、初期設定値の決め方について手順書を作成した。

### ～初回ウェルウォーク各設定について評価の流れ～

#### 1. 『荷重値』を設定しよう

- ・麻痺側片脚へ最大荷重または片脚立位時の足底荷重量をモニターで確認。
- ・荷重値は実際に荷重した数値より5～10%程度下げた数値を設定。



＜図1＞の場合  
脚部へ70%荷重がかけられているため  
「荷重値：60～65%」の設定とする。

#### 2. 『抜重値』を設定しよう

- ・非麻痺側立脚中期に足底荷重量をモニターで確認。
- ・抜重値は実際に荷重した数値より5～10%程度上げた数値を設定。



＜図2＞の場合  
非麻痺側立脚中期に脚部へ30%荷重が残っているため  
「抜重値：35～40%」の設定とする。

#### 3. 『歩行速度』『介助量』を設定しよう

- ・非麻痺側をステップし立脚中期にかかる重心移動を確認する。

- ① 自身で重心移動が出来る場合  
歩行速度：WWデフォルト値で実施。歩容をみつつ速度調整。  
介助量：軽介助で実施し徐々にセラピストの介助を外していく。
- ② プッシャー症候群がある場合  
歩行速度：低速で実施。  
介助量：重介助にて重心移動を実施。

★上記設定で歩行困難な場合は、ウェルウォーク内での『立位訓練』に留める。  
または一旦、ウェルウォークの実施を控え通常訓練でプッシャー症候群の経過をみつつ再開していく。

#### 4. 『膝屈曲角度』を設定しよう

- ・歩行速度が遅い場合、屈曲角度『50～60°』に設定。歩容をみつつ調節例を参考に数値を変更していく。

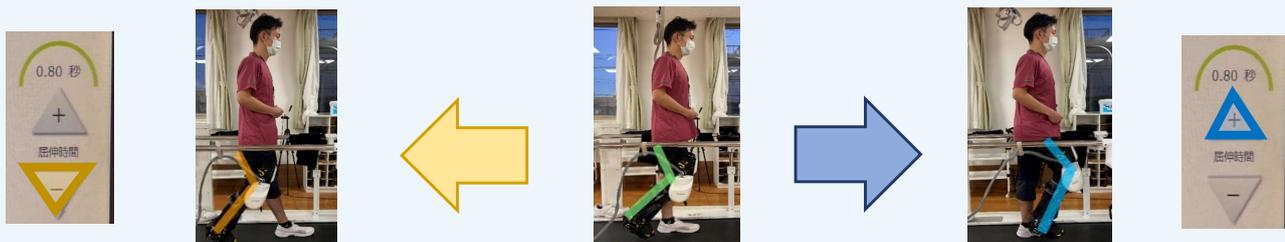


#### ＜数値の調節例＞

- ・歩幅が小さい ・歩行速度が速い  
→屈曲角度：『数値を小さく』設定して歩容を確認する。
- ・歩幅が大きい ・歩行速度が遅い  
→屈曲角度：『数値を大きく』設定して歩容を確認する。

#### 5. 『膝屈伸時間』を設定しよう

- ・実際にウェルウォーク歩行訓練を実施して設定値を決める。
- ・膝屈伸時間は非麻痺側立脚中期で脚部の膝が最も屈曲するポイントを数値で設定。



**屈伸時間が『速すぎる』場合**  
→屈伸時間を『遅く』設定して歩容を確認。

**屈伸時間が理想的な場合**  
非麻痺側立脚中期で膝が最も屈曲する。

**屈伸時間が『遅すぎる』場合**  
→屈伸時間を『速く』設定して歩容を確認。

ご不明点、ご質問等ございましたら下記メールアドレスまでご連絡下さい。

WW 臨床・運用相談窓口<clinical-ww@mail.toyota.co.jp>